



富山県

No.94 2020年1月

中央植物園だより



第22回私の植物写真展入選作品「ヒメガマの飛散」 撮影 / 若林 繁さん

ヒメガマ(イネ科)

ヒメガマは日本全国のため池や低地の湿地に分布します。雄花穂と雌花穂が離れてつくことでガマと区別され、晩秋にはたくさんの種子が風によって散布されます。

「第48回富山県蘭まつり大会」開催のお知らせ

毎年恒例の「第48回富山県蘭まつり大会」を3月6日(金)～3月8日(日)の3日間開催します。富山県蘭協会会員の作品のほか、今回はコショウランに焦点をあてた展示を行います。そのほかランの販売コーナーも開設します。また、7日と8日は栽培講習会も行う予定です。多くの方の参加をお待ちしております。



昨年の富山県蘭まつり大会入賞作品

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

イギリス植物紀行ーオックスフォード庭園整備に向けて

第三回 キュー植物園とウィズレー・ガーデン

栽培展示課 高橋 一臣

王立キュー植物園は、ロンドンの南西にある世界で最も有名な植物園です。今回は、同行してくれたオックスフォード大学樹木園のベンが樹木の苗をキューに届ける用事があったため、正規の入園口からではなく、圃場の入口から入園しました。そのため最初はキューに来た感じがしなかったのですが、しばらく歩くうち、絵や写真で何度も見たことがある中国風のパゴダや（写真1）、19世紀に建てられたパームハウス（写真2）などが目に入るにつれて、実感がわいてきました。

いわゆる「イギリス風景式庭園」というのでしょうか、広大な芝生の中に樹木が点在する景観を眺めていると、規模はともかく、私たちの富山県中央植物園がキューに似ているといわれるのがわかる気がしました。樹木はランダムに配置されているようでいて、所々にヴィスタと呼ばれる遠くを見通せる空間が確保されています（写真1もそのようなヴィスタのひとつ）。芝生は日本とは種類が異なり、2月でも青々としていて、雑草のヒナギクが花をつけていました。屋外はオフシーズンとはいえ、第一回で紹介したクロッカスをはじめ、スノードロップ、キバナセツブンソウ、クリスマスローズ、プリムラなどの草本や、マンサク、パロティア、サルココッカ、ロニセラなどの仲間が花をつけていました。

王立園芸協会のウィズレー・ガーデンでは、「ウィンター・ウォーク」と呼ばれるコースを中心に屋外を散策しました（写真3）。白や赤褐色の樹皮が美しいカバノキやサクラなどの高木、赤や黄色の枝がカラフルなミズキ類やカエデ類、粉白色の枝のキイチゴ類などの低木は、花も葉もつけていないのに冬の庭に彩をもたらします。これらの植物に、ツルマサキやセイヨウヒイラギなど常緑樹の斑入りの品種や、早春に開花するマンサク、ジンチヨウゲ、ミツマタ、エリカ、カルナ、クリスマスローズ、小型のアイリスなどの仲間がさまざまな組み合わせで植栽され、冬でも屋外の散策が楽しめるよう工夫されていました。

温室では、イベントの一環なのか、レゴブロックで巧妙に作られたラフレシアの花やトラなどの動物が展示されていてちょっと驚きました（私たちの植物園でも手作りのラフレシアなどの模型が温室に飾ってあって、邪道では…と心配していたのでちょっと安心）。盆栽コーナーでは、レバノンスギやヨーロツパバナを使った日本風の盆栽が展示されていました。小型球根のハウスでは、レイヨウボタン属に近縁なメギ科の球根植物ギムノスペルミウムのような、見たいと思っても日本ではあまり栽培されていない植物がふつうに展示されていて（写真4）、保有する植物の多様さに感心しました。



写真1 18世紀に流行したシノワズリー（中国趣味）様式のパゴダを望む。



写真2 19世紀に建てられたパームハウス。



写真3 冬でも楽しめるウィズレー・ガーデンのウィンター・ウォーク。



写真4 ルーマニア〜クリミア半島原産のメギ科の球根植物ギムノスペルミウム・オデッサム。

イベント開催レポート

第3回サボテン・多肉植物展

第3回サボテン・多肉植物展を10月18日（金）～10月20日（日）に開催しました。今年のテーマは「棘（トゲ）の美」をテーマに、トゲが美しく特徴があるサボテンや多肉植物に焦点を当てて、富山サボテン会会員の作品およそ300点を展示しました。サボテンの棘は嫌われがちですが、背景を暗くして見方を変えると、思わず写真に撮りたくなるような展示でした（写真2、3）。特に大型のサボテン「金鯨」の仲間は目を引きました（写真4）。



写真3 背景が黒いと白い棘が引き立つ



写真1 中央植物園長賞に選ばれた「晃山」（コウザン）



写真2 翠晃冠錦（スイコウカンニシキ）



写真4 大型のサボテン「金鯨」（キンシャチ）の仲間の展示

富山の植物◎『オオユリワサビ』

栽培展示課 山下 寿之

オオユリワサビ（*Eutrema okinosimense*）はアブラナ科の多年草で昭和10年に福岡県沖ノ島で新種として発見されました。一時は絶滅したとされていましたが、2000年に鳴橋直弘氏（富山大学名誉教授）らが北陸地方でオオユリワサビを発見してからは、本州日本海側の各地に分布することが相次いで発表されました。オオユリワサビは初夏に地上部が枯れた後地下に鱗茎を形成することで、ユリワサビと区別されます。この鱗茎が親株から離れることで種子繁殖だけでなく栄養繁殖をしています。12月ごろから葉を展開して越冬し、3～4月に開花します。5月には花茎をさらに伸ばして匍匐し結実し、5月下旬に上層の樹木の葉が展開すると、地上部を枯らして休眠します。

富山県内では氷見市山間部の渓谷斜面下部の数カ所で分布が確認されていますが、分布地域が限られていること、生育地が不安定なことから、2012年版の富山県レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されています。



写真1 オオユリワサビの群落（氷見市：2005年5月1日）



写真2 植物園内の栽培個体。花序は直径2～3cm（2018年3月30日）

植物だより：ハマベブドウがたわわに結実

ハマベブドウはタデ科ハマベブドウ属の常緑小高木で、アメリカのフロリダ州南部から西インド諸島、南アメリカに分布しています。英名も Sea grape (海のブドウ) といい、果実のなっている状態がまさにブドウに似ていることから名づけられました。房の長さは約30cmで、直径2cmの果実がおよそ80個つきます。果実は熟すと赤紫色になり、食用になるそうです。

園内のハマベブドウは1995年に熱帯果樹室に植栽したもので、開花しても長い間全く結実しませんでした。10年ほど前に雄しべのない雌株であることが判明し、新たに雄株を導入して雌株の近くに置きました。すると、最初はまばらに結実したのですが、今年ようやくたわわに実りました。



ブドウのように房状に結実したハマベブドウの果実

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展には入園料が必要です。

第7回新春カトレヤ展

1月10日(金)～1月13日(月・祝)

令和元年度研究発表展

1月17日(金)～2月19日(水)

第7回クリスマスローズ展

2月22日(土)～2月24日(月・祝)

第48回富山県蘭まつり大会

3月6日(金)～3月8日(日)

第16回雪割草富山県大会

3月13日(金)～3月15日(日)

サクラに関する企画展

3月20日(金・祝)～

■講演会

令和元年度研究発表会

1月26日(日) 13:00～16:00

会場：サンライトホール
(入園料が必要です)

■講座・講習会

栽培講習会

「カトレヤの栽培と管理」

1月11日(土)・12日(日)

両日とも13:30～14:30

会場：サンライトホール
(入園料が必要です)

栽培講習会

「クリスマスローズの栽培と管理」

2月23日(日)・24日(月・祝)

両日とも13:30～15:00

会場：ドリアスホール
(入園料が必要です)

栽培講習会

「ランの栽培と管理」

3月7日(土)・8日(日)

両日とも10:30～12:00、
14:00～15:30

会場：管理研修棟研修室

栽培講習会

「雪割草の栽培と管理」

3月14日(土)・15日(日)

両日とも13:30～15:00

会場：ドリアスホール
(入園料が必要です)

■ポタニック・ガーデンクラブ

(高校生以上対象、定員に達し次第締切)

初めてのラテアート ◎要申込

2月11日(火・祝) 13:30～15:30

定員：15名

参加費：500円

■月例行事

月例行事には入園料が必要です。

植物ガイド

ーボランティアと歩く植物園ー

第1, 2, 4, 5日曜日

13:30～14:00

集合場所/サンライトホール

ー園長と歩く植物園ー

第3日曜日 13:30～14:00

集合場所/サンライトホール

◎要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から前日までに「電話」でお申込ください。



富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)

(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日

(4月第1, 2木曜日とGW、お盆、祝日の場合は開園)

年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下ならびに70歳以上通年無料
冬期入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 300円
団体料金(20名以上) 240円
高校生以下ならびに70歳以上通年無料
年間パスポート(購入日より1年間有効)2,100円

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ」経由萩の島循環または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.94

編集・発行/富山県中央植物園(指定管理者:公益財団法人 花と緑の銀行)
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL076-466-4187 <http://www.bgtym.org/>
令和元年12月25日発行 印刷/中村印刷工業株式会社